

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第51週（12月18日～12月24日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告は第50週の1.33から第51週は4.38と3倍以上急増しています。県全域から報告があり、中央西以外の全ての地域で急増しているため注意が必要です。

また、学校等における集団発生の報告で高知市保健所管内から学級閉鎖が2例報告されています。

インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザA型の割合が61.4%、インフルエンザB型の割合が38.6%となっています。病原体検出情報では、第51週に須崎から搬入された検体からInfluenza virus A H3 NT、Influenza virus B/Victoriaが1件ずつ、幡多からInfluenza virus B/Yamagataが1件検出されています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2017年第46～50週）ではAH1pdm09の検出割合が最も多く59.8%、次いでB（山形系統）が23.7%、AH3が15.6%、B（系統不明）が0.8%の順でした。

インフルエンザの流行期に入っていますので、外出後の手洗いなどの感染予防を心がけ、症状がある方は、咳エチケットに心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人ごみを避けるなどの対策も有効です。感染力は非常に強く、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することから、集団生活の場では特に注意が必要です。

インフルエンザワクチンには、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められており、ワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、およそ2週間かかると言われています。予防対策の1つとして予防接種をご検討下さい。

＜予防方法＞ 手洗いと咳エチケットを心がけましょう

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- （1）普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- （2）咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- （3）手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。

厚生労働省 平成29年度今冬のインフルエンザ総合対策について：<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第50週の3.30から第51週では3.07と横ばいです。県全域から報告があり、須崎で急減、幡多、中央東で減少していますが、安芸で急増、中央西で増加しています。

定点医療機関からのホット情報ではノロウイルス5例、細菌のカンピロバクター属菌を原因とする胃腸炎の報告があります。

また、学校等欠席者・感染症情報システム※でも14例の報告があることから引き続き注意が必要です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

予防対策のため、帰宅時や調理前・食事前、トイレの後に石けんでよく手を洗いましょう。また、感染した人の便やおう吐物には、直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）また、調理をする場合は、十分加熱しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第50週の1.90から第51週では1.87と横ばいです。中央西で急減、高知市で減少していますが、中央東で急増、安芸で増加し、安芸では注意報値を超えています。

病原体検出情報では、第50週に高知市から搬入された検体から *Streptococcus pyogenes Untypable* が2件検出されています。

また、学校等欠席者・感染症情報システム※で溶連菌感染症 20 例の報告があることから注意が必要です。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる飛まつ感染、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染が主な感染経路で、ヒトとヒトとの接触の機会が増加するときに起こりやすく、家庭、学校などの集団での感染も多くなるため注意が必要です。うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○百日咳に気を付けて！

第 51 週の定点医療機関からの報告数は 0.03 と横ばいですが、中央東では注意報値を超えています。

百日咳は、感染力が強く、軽症でも菌の排出があるため、注意が必要です。特に生後 6 ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は特に感染に対する注意が必要です。また、成人が感染した場合は、通常咳が長期にわたって持続するものの、典型的な発作性の咳嗽を示すことはなく、やがて回復に向かいます。軽症で感冒など他の疾患との鑑別が困難であり、菌の排出があるためワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源として注意が必要です。

感染予防にはワクチン接種があります。ワクチンは生後 3 ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

百日咳については、感染症法改正により平成 30 年 1 月 1 日より「全数把握疾病」に変更になります。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

屋外活動の際にはダニに注意！

★日本紅斑熱や SFTS に注意しましょう

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で 3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは野山、草地、畑、河川敷などに広く生息しています。屋外でキャンプ、ハイキングなどのレジャーや農作業をする場合には次のことに注意しましょう。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち上がったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

また、このたび発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・ふん便から SFTS ウイルスが検出された事例並びに、体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトが SFTS を発症し死亡した事例が確認されました。これらの事例は稀な事例ではありますが、イヌやネコの体液等からヒトが感染することも否定できないので、体調不良の動物に接触した後、発熱等の症状が出た時には医療機関を受診して下さい。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用医薬品	約6時間	12歳未満は使用禁止	
イカリジン	5%	防除用医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋
※市販の虫除け剤（忌避剤）は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

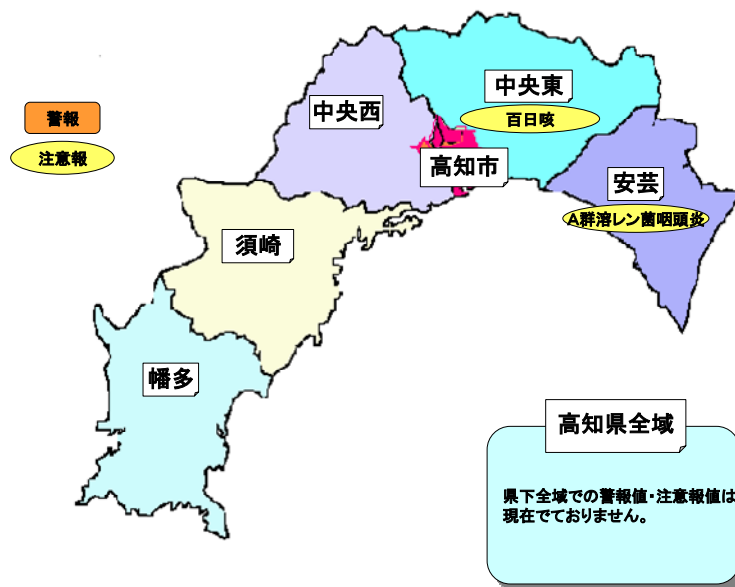
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑ : 急増 ↗ : 増加 → : 横ばい ↘ : 減少 ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↑	4.38	県全域、高知市、須崎、幡多、中央東、安芸で急増しています。
感染性胃腸炎	→	3.07	須崎で急減、幡多、中央東で減少していますが、安芸で急増、中央西で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.87	中央西で急減、高知市で減少していますが、中央東で急増、安芸で増加し、安芸で注意報値を超えています。
RSウイルス感染症	↘	0.50	中央西、須崎で急減、県全域、中央東で減少していますが、幡多で急増しています。
突発性発疹	↑	0.40	県全域、安芸、幡多、中央東で急増、高知市で増加しています。

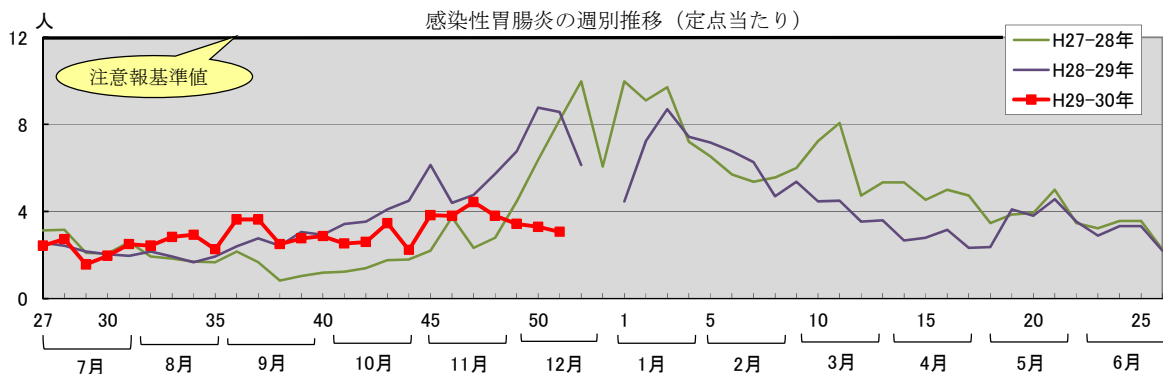
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

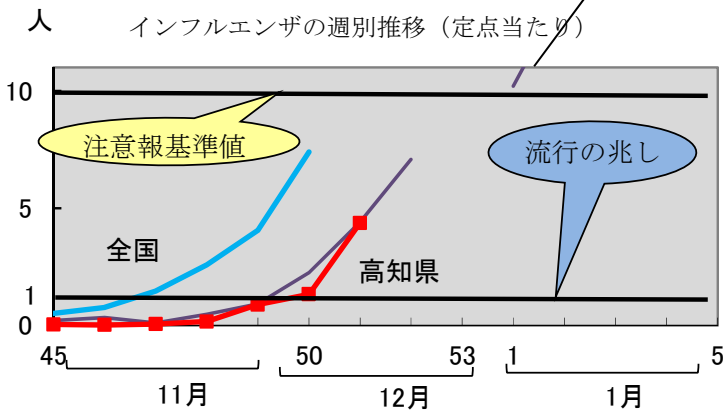
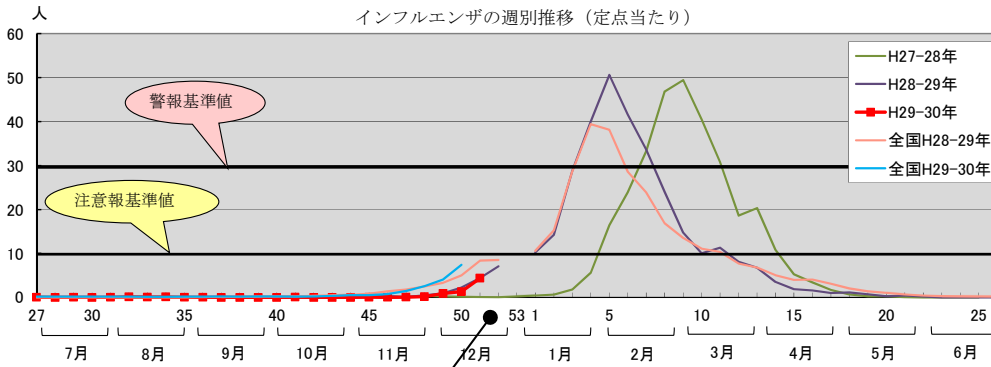
○感染性胃腸炎 第51週：3.07（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.07（前週：3.30）と横ばいです。須崎 1.00（前週：3.50）で急減、幡多 4.00（前週：7.20）中央東 2.00（前週：2.57）で減少していますが、安芸 8.00（前週：2.50）で急増、中央西 2.33（前週：1.33）で増加しています。



○インフルエンザ 第51週：4.38（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 4.38（前週：1.33）と急増しています。高知市 5.88（前週：1.44）須崎 5.50（前週：0.50）幡多 4.38（前週：0.88）中央東 2.55（前週：0.27）安芸 0.75（前週：0.25）で急増しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。そのため、H28-H29のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
51	手足口病	38℃, 口内炎,	1	男	須崎	Cytomegalovirus
51	不明発疹症	40℃, 発疹,	1	男	須崎	Cytomegalovirus
51	インフルエンザ	38℃,	35	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
51	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気,	5	男	須崎	Influenza virus B/Victoria
51	インフルエンザ	39℃, 咳嗽, 上気道炎,	15	男	幡多	Influenza virus B/Yamagata

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
46	上気道炎	39℃, 咳嗽, 上気道炎,	4	女	高知市	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
47	不明発疹症	39℃, 発疹,	9ヶ月	男	須崎	Adenovirus 1
48	手足口病	発疹, 口内炎,	4	男	高知市	Enterovirus 71
49	—	39℃, 下痢,	1	女	幡多	Astrovirus 2
49	不明発疹症	38℃, 嘔吐, 嘔気, 咳嗽,	9ヶ月	女	須崎	Echovirus 18
49	—	40℃,	1ヶ月	女	高知市	Echovirus 3
49	—	38℃,	1	男	中央東	Echovirus 3
50	感染性胃腸炎疑い、腸重積症	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	1	女	中央東	Adenovirus 2
50	咽頭結膜熱	40℃, 結膜炎,	2	女	須崎	Adenovirus 2
50	不明発疹症	38℃, 発疹, 関節痛,	14	女	須崎	Human herpes virus 7
50	インフルエンザ様疾患	40℃, 嘔吐, 嘔気, 気管支炎,	5	女	幡多	Human metapneumovirus
50	水痘	38℃, 水疱, 発疹,	4	男	高知市	Varicella-zoster virus
50	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃, 上気道炎,	12	女	高知市	Streptococcus pyogenes Untypable
50	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃, 上気道炎, 発疹,	8	男	高知市	Streptococcus pyogenes Untypable

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	112	50歳代 女	安芸
		1		80歳代 女	
		1		90歳代 女	中央東
		1		40歳代 男	中央西
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	5	70歳代 女	高知市

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 2例 (1歳男)
中央東	早明浦病院小児科	アデノウイルス感染性胃腸炎 1例 (2歳女) ノロウイルス感染性胃腸炎 1例 (4歳女)
	田村こどもクリニック	インフルエンザ 6例 (内0歳と40歳は4歳の家族なので検査はしていません)
	高知大学医学部付属病院小児科	RSV 細気管支炎 1例 (2ヶ月女)
高知市	高知医療センター小児科	インフルエンザ 1例 (4歳女)
	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎 1例 (16歳) アデノウイルス扁桃炎 2例 (2歳2人) ノロウイルス胃腸炎 2例 (1歳、2歳)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザ 11例 (A型3人、B型8人:1人ワクチン接種済み) 溶連菌感染症 3例
	三愛病院小児科	マイコプラズマ感染症 1例 (14歳女)
	日高クリニック	ヒトメタニューモウイルス感染症 2例 (2歳女、5歳男)
中央西	石黒小児科	水痘 1例 (4歳女:ワクチン1回接種済み)
須崎	もりはた小児科	咽頭結膜熱 1例 (1歳男) マイコプラズマ肺炎 4例 (3歳2人、5歳、6歳) インフルエンザ増加 14例 (A型9例、B型5例)
幡多	さたけ小児科	カンピロバクター腸炎 1例 (2歳女) インフルエンザ B型 1例
	幡多けんみん病院小児科	ノロウイルス陽性 2例 (1歳男) hMPV 陽性 4例 (6ヶ月女、1歳女、2歳男女)
	渭南病院小児科	ヒトメタニューモウイルス気管支炎 1例 (1歳男)

★全国情報

第49号 (12月4日～12月10日)

- 1類感染症：報告なし
- 2類感染症：結核345例
- 3類感染症：細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症17例
- 4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎2例、エキノコックス症1例、ジカウイルス感染症1例、つつが虫病40例、デング熱3例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症21例
- 5類感染症：アメーバ赤痢18例、ウイルス性肝炎4例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症20例、急性脳炎9例、クリプトスポリジウム症7例、クロイツフェルト・ヤコブ病8例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症12例、後天性免疫不全症候群28例、ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症2例、侵襲性肺炎球菌感染症49例、梅毒77例、播種性クリプトコックス症1例、破傷風1例、薬剤耐性アシネトバクター感染症2例

報告遅れ：E型肝炎3例、つつが虫病6例、日本紅斑熱1例、ポツリヌス症1例、マラリア1例、レジオネラ症7例、レプトスピラ症2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症9例、急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、水痘 (入院例に限る) 1例、梅毒50例、風しん1例、薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

※第52週 (12月25日から12月31日) の週報は年末年始の影響で報告が遅れるため、第52週・第1週 (平成30年1月1日から1月7日) との合併号として、平成30年1月11日(木)に発行します。

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第51週 平成29年12月18日(月)～平成29年12月24日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第51週					計	前週	全国(50週)	高知県(51週未累計)		全国(50週未累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H29/1/2～H29/12/24	
インフルエンザ	インフルエンザ		3	28	94	28	22	35	210 (4.38)	64 (1.33)	36,664 (7.40)	14,983 (312.15)	1,461,170 (295.54)
小児科	咽頭結核熱				9	1	1		11 (0.37)	3 (0.10)	2,689 (0.85)	401 (13.37)	88,024 (27.87)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		9	6	23	1		17	56 (1.87)	57 (1.90)	10,118 (3.20)	2,534 (84.47)	350,152 (110.88)
	感染性胃腸炎		16	14	33	7	2	20	92 (3.07)	99 (3.30)	27,353 (8.65)	5,667 (188.90)	821,895 (260.26)
	水痘				10	1			11 (0.37)	18 (0.60)	2,104 (0.67)	604 (20.13)	56,917 (18.02)
	手足口病		1		6	2			9 (0.30)	13 (0.43)	2,545 (0.81)	3,339 (111.30)	355,500 (112.57)
	伝染性紅斑								(0.00)	(0.00)	276 (0.09)	115 (3.83)	11,964 (3.79)
	突発性発疹	1	2	7				2	12 (0.40)	6 (0.20)	1,347 (0.43)	537 (17.90)	71,104 (22.52)
	百日咳		1						1 (0.03)	1 (0.03)	32 (0.01)	28 (0.93)	1,599 (0.51)
	ヘルパンギーナ							1	1 (0.03)	2 (0.07)	295 (0.09)	604 (20.13)	85,668 (27.13)
	流行性耳下腺炎			1	3				4 (0.13)	1 (0.03)	877 (0.28)	197 (6.57)	76,272 (24.15)
RSウイルス感染症			4	9				2	15 (0.50)	22 (0.73)	2,266 (0.72)	1,791 (59.70)	134,989 (42.75)
眼科	急性出血性結膜炎								(0.00)	(0.00)	12 (0.02)	(0.00)	421 (0.61)
	流行性角結膜炎								(0.00)	(0.00)	594 (0.85)	17 (5.67)	25,618 (36.86)
基幹	細菌性髄膜炎								()	(0.00)	6 (0.01)	6 (0.75)	509 (1.07)
	無菌性髄膜炎								()	(0.00)	14 (0.03)	7 (0.88)	926 (1.94)
	マイコプラズマ肺炎				2				2 (0.25)	1 (0.13)	175 (0.37)	89 (11.13)	8,004 (16.78)
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								()	1 (0.13)	4 (0.01)	13 (1.63)	253 (0.53)
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)								()	(0.00)	16 (0.03)	88 (11.00)	4,935 (10.35)
計	(小児科定点当たり人数)	29 (13.75)	57 (6.69)	196 (14.98)	40 (9.59)	25 (7.00)	77 (12.78)	424 (11.45)			87,387	31,020 (839.38)	3,555,920
前週	(小児科定点当たり人数)	15 (7.25)	36 (4.84)	120 (10.17)	40 (9.60)	13 (6.00)	64 (12.28)		288 (8.72)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第51週					計	前週	全国(50週)	高知県(51週未累計)		全国(50週未累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H29/1/2～H29/12/24	
インフルエンザ	インフルエンザ		0.75	2.55	5.88	5.60	5.50	4.38	4.38	1.33	7.40	312.15	295.54
小児科	咽頭結核熱				0.82	0.33	0.50		0.37	0.10	0.85	13.37	27.87
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4.50	0.86	2.09	0.33		3.40	1.87	1.90	3.20	84.47	110.88
	感染性胃腸炎		8.00	2.00	3.00	2.33	1.00	4.00	3.07	3.30	8.65	188.90	260.26
	水痘				0.91	0.33			0.37	0.60	0.67	20.13	18.02
	手足口病			0.14	0.55	0.67			0.30	0.43	0.81	111.30	112.57
	伝染性紅斑								0.00	0.00	0.09	3.83	3.79
	突発性発疹	0.50	0.29	0.64				0.40	0.40	0.20	0.43	17.90	22.52
	百日咳			0.14					0.03	0.03	0.01	0.93	0.51
	ヘルパンギーナ							0.20	0.03	0.07	0.09	20.13	27.13
	流行性耳下腺炎			0.14	0.27				0.13	0.03	0.28	6.57	24.15
RSウイルス感染症			0.57	0.82			0.40	0.50	0.73	0.72	59.70	42.75	
眼科	急性出血性結膜炎							0.00	0.00	0.02	0.00	0.61	
	流行性角結膜炎							0.00	0.00	0.85	5.67	36.86	
基幹	細菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.01	0.75	1.07	
	無菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.03	0.88	1.94	
	マイコプラズマ肺炎				0.40			0.25	0.13	0.37	11.13	16.78	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							0.00	0.13	0.01	1.63	0.53	
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)							0.00	0.00	0.03	11.00	10.35	
計	(小児科定点当たり人数)	13.75	6.69	14.98	9.59	7.00	12.78	11.45			839.38		
前週	(小児科定点当たり人数)	7.25	4.84	10.17	9.60	6.00	12.28		8.72				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2017年12月25日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。